

いんすいしげん
飲水思源
町長 松岡市郎

中山恭子さんから学ぶ

9月19日、参議院議員の中山恭子さんに小学校時代を過ごした本町に訪れた。小学校6年生の時に父さまがお亡くなりになり、母方の実家がある群馬県へ転居されたが、自らを紹介するプロフィールには「東川小学校入学」と書かれている。東川には思い出深いものがあるという、旭川へ来られた機会に立ち寄っていた。

中山恭子さんという、10年ほど前北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)からの拉致家族を連れ戻した時の内閣官房参与あるいは総理大臣補佐官としてのイメージが強いが、政治家として「日本国士を守る」こと、経済成長は美しい街づくりと文化交流が大切」と唱えられている。

特に今の円高、デフレの苦境を変えるためには、成長政策として電線の地中化、緑化、歩道の整備など、欧米先進国の美しい街並み水準に引き上げる公共事業を国が創出することが大切であるという。財源は、返済する必要がない200〜300兆円程度の国債を日銀が引き受け、通貨量を増加することと提言している。「辛い雇用環境の時こそ国の出番」と

主張には納得できる。

今、本町が計画調査認定を受けている農業基盤整備も次代への成長に不可欠なものだ。街中の歩道や公園整備等は、生産や生活の基盤をより強固なものにし、写真の町にふさわしいものでもあり大切なことだと確信する。次代を担う子供たち等の教育施設の充実も同じである。

「作るもの、買うもの、社会に住むもの」と「3ものよし」が日本の「共生文化」であった。経済が縮小している時、民間への発注をたいて安くすることが住民福祉の向上という提言をいたしたが、たたかれて泣いている中小零細業者が多数いる。規制緩和をすべて否定するわけではないが、日本の「共生文化」という考え方は、競争し相手を倒して生きていくものとはちょっと違う。

わが町の行政は、住民の笑顔を糧(かて)として国、道の財源をフルに活用し、住民が暮らしやすく、美しい「写真の町」にふさわしい環境づくりを進めることが大きな使命である。中山恭子さんのお話しをお聞きし、「文化を大切にしたい美しいまちづくり」に意を強くする。



▲雪の黒岳石室と桂月岳(昨年10月5日)
▼雪の黒岳山頂(昨年10月5日)

この時期の夕暮れの暗さと早さは、いつも「『10月は黄昏の国』という小説の題名そのものだな」と思っています。10月初めころ、日没は前日より約2分間早まります(この間、日の出は一日1分間くらいしか変わりません)。日没から暗くなるまでの時間は最も短く、気分も「タソガレ」やすい時期ですが、ロープウェイなどの最終便の運行時間も早まっているので、ぼんやり歩いていると乗り遅れてしまいそうになります。

このころ山の中で出会う数少ない人は、どこかで会ったことのあるような人ばかり。本当の山好きがそぞろ歩きに出る時季、という気がします。

旭岳ビジターセンターホームページ
<http://www.welcome-higashikawa.jp/info/?c=16>

旭岳ビジターセンター 管理主任 菊地 基

だいせつざんのすがお
大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人々をリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

冬じまいの季節

10月初め、夏山営業を終え、冬じまいの作業も終盤のころ、黒岳石室を訪ねます。

一昨年は、小屋の周りに草紅葉の名残や、リスの餌集めも見られ、雪はよく見ると岩陰などにポツンとある程度でした。

ところが昨年は、この時期としてはかなり雪が降りました。吹き溜まった雪は小屋の裏手の谷をすっかり埋め、ささやかな初滑りが楽しめました。10月、大雪山の稜線部はまさに冬の入り口をまたぐところです。

しかし、低い場所はこれからが秋の盛りです。たいへん温かい今年、羽衣の滝周辺の紅葉は、10月半ばからが見ごろかもしれません。滝までは、多少高齢でも障害があっても割合歩きやすい道です。今年も家族と一緒に、落差の大きな急スロープを薄絹のように流れる滝を訪れたいものです。

俳句

散歩道日に日に稲穂頭下げ
稲妻や墨絵のごとき村の景
露の秋留めて朝日の時を待つ
庭下駄に朝露を知る素足かな
露の世や生き過ぎるほど生きてやれ
母となり母を送りぬ 鱚雲
不器用な会話が招く秋の風
露草を摘み染まりたる指二本
秋ですよ捲り忘れしカレンダー
芝ジュータン踏まれて垂れる露しぐれ
地域の輪叩く太鼓に踊らされ
朝霧や花がら積んで一輪車
露野行く単線一両電車かな
麦笛を吹けぬくやしき少女の日
露草の青に魅せられ季節移る
くもの葉にかかる白露ネックレス
空色に白い絵の具や 鱚雲

高瀬潤
石澤清宏
澤田久美子
松山蓉子
三島智
若田郁
秋山深雪
長谷川きみゑ
小林ろば
高橋公花
杉山ひろのり
保科なほ
徳光吐苦
杉山りつ
山口佐知子
横田則子
若田久



文化交流館 新刊図書・ビデオ案内

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています
貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



ある日、少年記者のタンタンは、ガラスケースに陳列されていた帆船の模型に魅了され購入する。ところがその後から、タンタンは見知らぬ男たちに追いかけて回される破目になる。何とその船は17世紀に海賊の襲撃によって消息を絶った伝説のユニコーン号で、模型のマストにはある暗号が記された巻物が隠されており…。(107分)



ぼっつんととと…。外は雨が降っています。誰も遊びに来ないし、お花もつみに行けなくて、あーちゃんのご機嫌ななめです。すると窓ぎわにかえるくんが現われて、あーちゃんはお家には「お家にいらっしゃい」と招待されました。かえるくんの家では、かえるくんのおかあさんが歌いながらお料理を作っています。歌に誘われて、森の仲間たちも次々にやってきます。さあ、雨の日パーティーのはじまりです!



男性写真家でも真似できないような行動力で、ファインダーを通してたくさんの人と出来事を伝え続けている日本で最初の女性報道写真家、笹本恒子さん。まだ女性の報道写真家がいなかった時代、総理大臣の首根っこをキュッと締め上げ、マッカーサー元帥を呼び止め、那須のご用邸にアポなし突撃。戦前、戦中、戦後そして現在の波乱万丈の97年間を振り返る。